

102 イエス、ガリラヤからエルサレムに向かう

ヨハネによる福音書 7 : 1~10、ルカによる福音書 9 : 51~56

~ここから、迫害に立ち向かうイエスの姿が描かれる~

イエスの弟子たちの不信仰 ヨハネによる福音書 7 : 1~10

01 その後、イエスはガリラヤを巡っておられた。(最高法院の議員である)ユダヤ人(たち)が(イエスを)殺そうとねらっていたので、ユダヤを巡ろうとは思われなかった。

02 ときに、ユダヤ人の(秋の収穫が済んだ後に行われる)仮庵祭が近づいていた。

※仮庵祭~半年~イエスの十字架(過越祭)

太陽暦・ユダヤ暦・バビロニア暦

太陽暦	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月(ヘブライ暦)	第一の月	第二の月	第三の月	第四の月	第五の月	第六の月	第七の月	第八の月	第九の月	第十の月	第十一の月	第十二の月	
ユダヤ暦	ニサン Nisan, Nisan	イヤール Iyyar	シバン Sivan, Sivan	タムーズ Tammuz	アブ Abh, Av	エルール Elul	ティシュリ Tishri	マルヘシュバン Marcheshvan	キスレーウ Kislev, Kislev	テベット T'ebetheth	シュバット Shevat	アダール Adhar, Adar	
バビロニアの月名 (0:カナン)の古称	ニサン (アピブ)	イツアル (ジウ)	シワン	タンムズ	アブ	エルル	ティシュリ (エタニム)	ヘシュワ (フ)	キスレウ	テベト	シェバト	アダール	
主な行事		七週間 14~21 過越祭(ベサハ) 除酵祭		七週祭(シャブオット) II 五旬祭(ペンテコステ Pentecoste ギリシア語) ※ユダヤの三大祭: 過越祭、七週祭、仮庵祭			1: 新年 10: 大贖罪日 15~21: 仮庵祭(スコット)			25: 宮清めの祭 (25日~8日間)			

- ・ユダヤ暦は、日本の旧暦と同じく、月の満ち欠けを基準に月を決める方式(太陰太陽暦)です。
- ・ユダヤ暦は、一日が日没(夕方)に始まり、次の日の日没(夕方)に終わります。それは、聖書の創造の記事に「夕べがあり、朝があった」(創世記1:5他)と記されているからです。
- ・イスラエルでは普段の生活には、西暦も使っていますが、ユダヤ教の祝祭日や公式行事はユダヤ暦によって決められています。
- ・ユダヤ暦は天地創造を起点にして数えることになっており、西暦+3760年(西暦よりも3760年長い)となる。

→仮庵祭は、秋の収穫が済んだ後に行われた(出エジプト記 23 : 16、レビ記 23 : 33~36、申命記 16 : 13~17)。仮庵祭では、エジプトを出て荒野をさまよったとき、イスラエルの民に多くの神の守りがあったことを忘れないために、仮小屋を建てた。

→ユダヤの三大祭(巡礼祭)

1. 過越祭: 出エジプトの記念 春 →最初の祭り=人生の始まりを暗示(出 12 : 2~3)。
2. 七週祭: 律法付与の記念 ↑半年
3. 仮庵祭: 荒野の放浪の記念 秋 →最後の祭り=人生の完了と成功を暗示(出 23 : 16)。

03 イエスの兄弟たちが(皮肉を込めて)言った。

「ここ(ガリラヤ)を去ってユダヤに行き、あなたのしている業を(十二弟子以外の)弟子たちにも見せてやりなさい。

04 公に知られようとしながら、ひそかに行動するような人はいない。こういうことをしているからには、自分を世にはつきり示しなさい。」

→イエスの兄弟たち: イエスの実際の兄弟たち、あるいは従兄弟や異父母兄弟とも考えられる。

→イエスの兄弟姉妹: ヤコブ、ヨセフ(=ヨセ)、シモン、ユダ、姉妹たち

ヤコブ=小ヤコブ=義人ヤコブ: 十二使徒の一人で、アルファイ[ギリシア語](クロバ[アラム語、マルコによる福音書 3 : 18]=クレオパ Cleopas [ルカによる福音書 24 : 18])の子。

ヤコブはイエスの死から復活までを目撃し(コリント信徒への手紙一 15 : 7)、エルサレムのユダヤ人キリスト教会の指導者となった(使徒言行録 15 : 13、21 : 18、ガラテヤの信徒への手紙 1 : 19)。教会の伝承によると、AD70年以前に処刑された。当時、息子の名前は父親の名前ヨセ



フを付けて呼ばれるのが習慣だが、ここではヨセフの名前が無い。恐らく既にヨセフが死んでいたか、または父親がいなかったと思われる。

05 兄弟たちも、イエスを信じていなかったのである。

06 そこで、イエスは言われた。

「**わたしの時はまだ来ていない。しかし、あなたがたの時はいつも備えられている。07 世はあなたがたを憎むことができないが、わたしを憎んでいる。わたしが、世の行っている業は悪いと証ししているからだ。08 あなたがたは（仮庵の）祭りに上って行くがよい。わたしはこの祭りには上って行かない。まだ、わたしの時が来ていないからである。」**

→わたしの時：イエスの死と復活の時＝神の子としての真の栄光が現れる時

【参考】 わたしの時と恵みの時、(そして恵みの時の後に来る)裁きの時

タイトル(書名)	章:節 聖句	〔検索対象総数 : 6 / 聖句等の総数 33250 <わたしの時>4個<恵みの時>3個〕 (新共同訳) [検索語彙 : わたしの時・恵みの時]
K イザヤ書	49:8	主はこう言われる。わたしは恵みの時にあなたに答え／救いの日にあなたを助けた。わたしはあなたを形づくり、あなたを立てて／民の契約とし、国を再興して／荒廃した嗣業の地を継がせる。
S マタイによる福音書	26:18	イエスは言われた。「都のあの人のところに行ってこう言いなさい。『先生が、「わたしの時が近づいた。お宅で弟子たちと一緒に過越の食事をする」と言っています。』」
S ヨハネによる福音書	2:4	イエスは母に言われた。「婦人よ、わたしとどんなかわりがあるのです。わたしの時はまだ来ていません。」
S ヨハネによる福音書	7:6	そこで、イエスは言われた。「わたしの時はまだ来ていない。しかし、あなたがたの時はいつも備えられている。
S ヨハネによる福音書	7:8	あなたがたは祭りに上って行くがよい。わたしはこの祭りには上って行かない。まだ、わたしの時が来ていないからである。」
タイトル(書名)	章:節 聖句	〔検索対象総数 : 9 / 聖句等の総数 33250 <裁きの時>9個〕 (新共同訳) [検索語彙 : 裁きの時]
K エレミヤ書	10:15	彼らは空しく、また嘲られるもの／裁きの時が来れば滅びてしまう。
K エレミヤ書	51:18	彼らは空しく、また嘲られるもの。裁きの時が来れば滅びてしまう。
K エゼキエル書	30:3	その日は近い。主の日は近い。それは密雲の日、諸国民の裁きの時である。
S マタイによる福音書	12:41	ニネベの人たちは裁きの時、今の時代の者たちと一緒に立ち上がり、彼らを罪に定めるであろう。ニネベの人々は、ヨナの説教を聞いて悔い改めたからである。ここに、ヨナにまさるものがある。
S マタイによる福音書	12:42	また、南の国の女王は裁きの時、今の時代の者たちと一緒に立ち上がり、彼らを罪に定めるであろう。この女王はソロモンの知恵を聞くために、地の果てから来たからである。ここに、ソロモンにまさるものがある。」
S ルカによる福音書	10:14	しかし、裁きの時には、お前たちよりまだティルスやシドンの方が軽い罰で済む。
S ルカによる福音書	11:31	南の国の女王は、裁きの時、今の時代の者たちと一緒に立ち上がり、彼らを罪に定めるであろう。この女王はソロモンの知恵を聞くために、地の果てから来たからである。ここに、ソロモンにまさるものがある。
S ルカによる福音書	11:32	また、ニネベの人々は裁きの時、今の時代の者たちと一緒に立ち上がり、彼らを罪に定めるであろう。ニネベの人々は、ヨナの説教を聞いて悔い改めたからである。ここに、ヨナにまさるものがある。」
S ヨハネの黙示録	14:7	大声で言った。「神を畏れ、その栄光をたたえなさい。神の裁きの時が来たからである。天と地、海と水の源を創造した方を礼拝しなさい。」

09 こう言って、イエスはガリラヤにとどまられた。

10 しかし、兄弟たちが祭りに上って行ったとき、イエス御自身も、(注目を集めないようにひっそりとお忍びで) 人目を避け、隠れるようにして(エルサレムに) 上って行かれた。

→イエスは、奇跡によってのみ、人々を信じさせるのは危険だと分かっていた。

サマリア人から歓迎されない ルカによる福音書 9 : 51~56

51 イエスは、天に上げられる時期が近づくと、(ユダヤ人の宗教の中心地である) エルサレムに向かう決意を固められた。 52 そして、先に使いの者を出された。彼らは行って、イエスのために準備しようと、サマリア人の村に入った。

53 しかし、村人はイエスを歓迎しなかった。イエスがエルサレムを目指して進んでおられたからである。

54 弟子のヤコブとヨハネはそれを見て、「**主よ、お望みなら、天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼしましょうか**」と言った。

→不寛容な感情は、ほとんどが誤った特権意識から出て来る。

55 イエスは振り向いて二人(の不寛容さ)を戒められた。(そして言われた。「あなた方は、**霊[Pneuma]の性質を知らないのか。人の子は人の命[プシュケー]を滅ぼすためではなく、救うために来た。**」※1)

56 そして、一行は別の村に行った。

④※1を加えている写本もある。

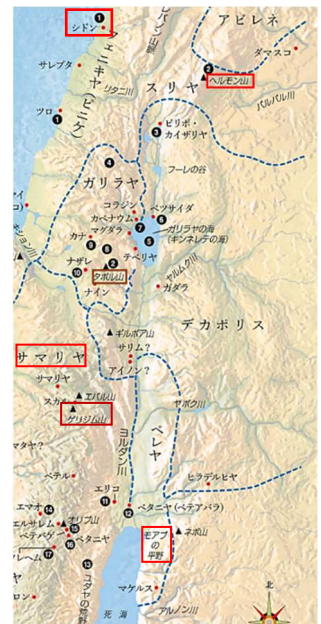
【参考】サマリア人 Samaritan

サマリア (Samaria) は、パレスチナ中央部の地域名で、北にガリラヤ、南にユダヤが接する。「列王記」によると、サマリアという名前は昔この辺の土地を持っていた地主「シエメル/セメル Shemer」の名前が起源とされる。

→列王記上 16 : 23~24 ユダ (南王国) の王アサの治世 (BC911~870/913~873) 第三十一年に、オムリが (北) イスラエルの王 (BC885~874/876~869) となり、十二年間王位にあった。彼は六年間ティルツァで国を治めた後、シエメルからサマリアの山を銀二キカル (約 34 kg/キカル×2=約 68 kg、Ag80 円/g×68 kg≒544 万円) で買い取り、その山に町を築いた。彼はその築いた町の名を、山の所有者であったシエメルの名にちなんでサマリアと名付けた。

→オムリ : 列王記に記されている以上に実際には王として成功を収めた (列王記 16 : 21~27)。【モアブ】を支配し、息子の婚姻を通して【シドン】と同名を結び (16 : 31)、サマリアを築いて首都とした。しかし、この卓越した政治力も信仰の面では発揮されなかった (16 : 25~26、ミカ書 6 : 16)。

その後この辺り周辺が北イスラエル王国の首都となったため、都市に限らずにこのあたりの地域やもっと広く北イスラエル王国そのものを指すようになった。



【参考】 祭儀暦(主の祝祭日等) レビ記 23 章 他 (新共同訳)

▶01 主はモーセに仰せになった。

▶02 イスラエルの人々に告げてこう言いなさい。あなたたちがイスラエルの人々を聖なる集會に召集すべき【主の祝日】は、次のとおりである。

▶03 六日の間仕事をする。七日目は最も厳かな安息日であり、聖なる集會の日である。あなたたちはいかなる仕事もしてはならない。どこに住もうとも、これは主のための安息日である。→**安息日**(土曜日) →安息日は、金曜日の日没とともに始まり、土曜日の日没に祝福の祈り(祝祷)で終わる。従って、聖書(正規)の安息日は土曜日である。安息日は労働をやめて休息する日である。→出エジプト記 20:8~10、23:12、31:14~15、34:21、35:2、申命記 5:12

▶04 以下は【主の祝日】であり、その日あなたたちはイスラエルの人々を聖なる集會に召集しなければならない。

太陽暦・ユダヤ暦・バビロニア暦

太陽暦	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月(ヘブライ暦)	第一の月	第二の月	第三の月	第四の月	第五の月	第六の月	第七の月	第八の月	第九の月	第十の月	第十一の月	第十二の月	
ユダヤ暦	ニサン Nisan, Nissan	イヤール Iyyar	シバン Sivan, Sivan	タムーズ Tammuz	アブ Abh, Av	エルール Elul	ティシュリ Tishri	マルヘ シユバン Marcheshvan	キスレーヴ Kislev, Kislev	テベット T'ebheth	シユバット Shevat	アダール Adhar, Adar	
バビロニアの月名 0: カナンの古称	ニサン (アビブ)	イヤール (ジウ)	シワン	タンムズ	アブ	エルル	ティシュリ (エタニム)	ヘシュワン (ブル)	キスレウ	テベト	シェバト	アダール	
主な行事	七週間		七週祭(シャブオット) 五旬祭(ペンテコステ Pentecoste)				1: 新年 10: 大贖罪日 15~21: 仮庵祭(スコット)		25: 宮清めの祭				
	14~21 過越祭(ペサハ) 除酵祭		※ユダヤの三大祭: 過越祭、七週祭、仮庵祭										

- ・ユダヤ暦は、日本の旧暦と同じく、月の満ち欠けを基準に月を決める方式(太陰太陽暦)です。
- ・ユダヤ暦は、一日が日没(夕方)に始まり、次の日の日没(夕方)に終わります。それは、聖書の創造の記事に「夕べがあり、朝があった」(創世記1:5他)と記されているからです。
- ・イスラエルでは普段の生活には、西暦も使っていますが、ユダヤ教の祝祭日や公式行事はユダヤ暦によって決められています。
- ・ユダヤ暦は天地創造を起点にして数えることになっており、西暦+3760年(西暦よりも3760年長い)となる。

©聖書ともに会 H.Taniguchi

▶05 第一の月の十四日の夕暮れが主の過越である。→**過越祭**(ペサハ): Pessach(ヘブライ語)、Passover →この祭りはエジプトで奴隷状態にあったイスラエルの民を神がどのように救い出したかを記念して祝われる。第一の月は、ユダヤ暦で「ニサンまたはアビブ」と呼ばれ、3月中旬から4月中旬に当たる。 →出エジプト記 12:13、23、27

▶06 同じ月の十五日は主の**除酵祭**である。あなたたちは七日の間、酵母を入れないパンを食べる。 →除酵祭は、過越祭の次の日から始まり、7日間続く。酵母を入れないパンを7日間食べるのは、酵母を入れたパンを膨らませる時間もないほど急いでエジプトを脱出しなければならなかったことを想起するためである。

→民数記 28:16~25

▶07 初日には聖なる集會を開く。いかなる仕事もしてはならない。

▶08 七日の間、燃やして主に献げる献げ物を続けて(→神に焼いた献げ物をささげ)、七日目に聖なる集會を開く。いかなる仕事もしてはならない。

▶09 主はモーセに仰せになった。

▶10 イスラエルの人々に告げてこう言いなさい。わたしが与える土地に入って穀物を収穫したならば、あなたたちは初穂(→大麦)を祭司のもとに携えなさい。→**初穂の祭り**(安息日の翌日=日曜日) →初穂は神に属する。初穂は、生活の祝福の源が神にあることを人々に覚えさせるために献げる。

▶11 祭司は、それを主に受け入れられるよう御前に差し出す。祭司は安息日の翌日にそれを差し出さねばならない。

→この安息日が除酵祭の最初の日なのか、除酵祭の直後の安息日なのかは不明。現代のユダヤ教では、特別な安息日として過ぎ越しの晩のこととされている。

▶12 この初穂を差し出す日には、傷のない一歳の雄羊を焼き尽くす献げ物として主に献げる。

▶13 それと共に穀物の献げ物、すなわち、十分の二エファ(≒4.6l、1エファ≒23l)の上等の小麦粉に

オリーブ油を混ぜたものを、燃やして主に献げる宥めなだめの香りとし、更に四分の一ヒン（≒0.950、1ヒン≒3.80）のぶどう酒をぶどう酒の献げ物として献げる。

▶14 この献げ物をあなたたちの神に献げるその日までは、あなたたちはパン、炒り麦、あるいはひき割り麦を食べてはならない。これはあなたたちがどこに住もうとも、代々にわたって守るべき不変の定めである。

→炒り麦：大麦を火にかけて、動かしながら水気が少なくなるまで熱し、ひいて粉にしたもの。

→ひき割り麦：大麦を臼うすでひいて、あらく砕いたもの。

▶15 あなたたちはこの安息日の翌日、すなわち、初穂を携え奉納物とする日から数え始め、満七週間を経る。

▶16 七週間を経た翌日まで、五十日を数えたならば、主に新穀（→小麦で作ったパン）の献げ物を献げる。

→除酵祭に初穂を献げてから50日後の収穫祭に新穀の献げ物を献げる。これは、「七週祭」、「収穫祭（刈り入れの祭）」と呼ばれ（出エジプト記23：16、34：22、申命記16：9～12）、後に、「五旬祭」（ペンテコステ）と呼ばれるようになった（使徒言行録2：1、20：16、コリントの信徒への手紙一16：8）。民は神に穀物を献げることで、感謝のしるしとし、神は必要なものを常に与えてくださるという信頼を示した。初穂が大麦であるのに対し、新穀の献げ物は小麦粉で作ったパンである（23：10、15）。

▶17 各自の家から、十分の二エファ（≒4.60、1エファ≒230）の上等の小麦粉に酵母を入れて焼いたパン二個を携えて、奉納物とする。これは主に献げる初物である。

▶18 このパンのほかに、傷のない一歳の雄の小羊を七匹、若い雄牛一頭、雄羊二匹を献げる。これらは穀物の献げ物やぶどう酒（→定められた量のぶどう酒が献げ物とされた：民数記15：1～16）の献げ物と共に主に献げる焼き尽くす献げ物であり、燃やして主に献げる宥めなだめの香りである。→列王記下16：13、15エズラ記7：17

▶19 また、雄山羊一匹を贖罪の献げ物（→意図せず過って神の戒めを破った罪を清めるためのもの）として、一歳の雄の小羊二匹を和解の献げ物（→動物の脂肪が祭壇で焼かれた肉は、祭司がその取り分を取った後に、奉納者も残った肉を祭司と共に食べることができる。ここは民全体のための公式に定められた礼拝における和解の献げ物のため、和解の献げ物はすべて祭司のものになる。）として献げる。

▶20 祭司はこれらを、初物のパンと共に奉納物として主の御前に差し出す。二匹の雄の小羊は主に聖別されたものとして祭司のものとなる。

▶21 あなたたちはこの日に集会を開きなさい。これはあなたたちの聖なる集会である。いかなる仕事もしてはならない。これはあなたたちがどこに住もうとも、代々にわたって守るべき不変の定めである。

▶22 畑から穀物を刈り取る時は、その畑の隅まで刈り尽くしてはならない。収穫後の落ち穂を拾い集めてはならない。 貧しい者や寄留者のために残しておきなさい。わたしはあなたたちの神、主である。

▶23 主はモーセに仰せになった。

▶24 イスラエルの人々に告げなさい。第七の月の一日は安息の日として守り、角笛（ショファール）を吹き鳴らして（→with trumpet blasts）記念し、聖なる集会の日としなさい。→ラッパの祭り

→第七の月（テイシュリまたはエタニムの月、9月中旬から10月中旬）の一日は、現代のユダヤ人がローシュ・ハ・シャナー（年の初め）として祝う日である。春のニサンニサンの月を新年とするのは、バビロン捕囚期のバビロニア暦の影響で、捕囚後は再び秋に新年を祝うようになった。

▶25 あなたたちはいかなる仕事もしてはならない。燃やして主に献げる献げ物を携えなさい。

▶26 主はモーセに仰せになった。

▶27 第七の月の十日は贖罪日である。 聖なる集会を開きなさい。あなたたちは苦行（→断食、地面に寝る、体を洗わない、香油を塗らない、着替えをしないなど：サムエル記下12：16～20）をし、燃やして主に献げる献げ物を携えなさい。→大贖罪日（ヨム・キプール）

→贖罪日は大祭司が自分自身と民全体の罪を贖うために至聖所に入る年に一度の日で、2匹の雄山羊を民の罪のために献げるが、一匹は贖罪の献げ物で、他の一匹は荒れ野に追いやられた（レビ記16章）。

▶28 この日にはいかなる仕事もしてはならない。この日は贖罪日であり、あなたたちの神、主の御前に

おいてあなたたちのために罪の贖いの儀式を行う日である。

▶29 この日に苦行をしない者は皆、民の中から断たれる。

▶30 また、この日に仕事をする者はだれであれ、わたしはその者を民の中から滅ぼす。

▶31 あなたたちは、いかなる仕事もしてはならない。これはあなたたちがどこに住もうとも、代々にわたって守るべき不変の定めである。

▶32 この日はあなたたちの最も厳かな安息日であり、あなたたちは苦行をせねばならない。この月の九日の夕暮れから翌日の夕暮れまでを安息日として安息しなさい。

→仮に第七の月の十日が安息日に当たらなくても、この日の労働は禁止される。

▶33 主はモーセに仰せになった。

▶34 イスラエルの人々に告げなさい。第七の月の十五日から主のために七日間の仮庵祭が始まる。

→秋の収穫祭の最後に行われ、7日間続く（申命記 16：13～17）。秋の収穫の感謝を神に献げ、エジプトから脱出した民が荒野での天幕での生活を想起するために木（→ミルトス：豊作、平和、再生の象徴で、仮庵を造る材料、ネヘミヤ記 8：13～16、ゼカリヤ 1：7～11）の枝で作った小屋（仮庵）に住む（レビ記 23：40～42、ネヘミヤ記 8章、エゼキエル書 45：25）。この祭りは「スコット（Sukkot）の祭り」として知られている。

▶35 初日に聖なる集会を開きなさい。いかなる仕事もしてはならない。

▶36 七日の間、燃やして主に献げる物を献げ続ける。八日目には聖なる集会を開き、燃やして主に献げる物を献げる。これは聖なる集まりである。あなたたちはいかなる仕事もしてはならない。

▶37 以上がイスラエルの人々を聖なる集会に召集すべき【主の祝日】である。あなたたちはこれらの定められた日に、燃やして主に献げる焼き尽くす献げ物、穀物の献げ物、和解の献げ物、ぶどう酒の献げ物を献げる。

▶38 このほかに主の安息日、主に献げるさまざまな献げ物、満願の献げ物、随意の献げ物がある。

▶39 なお第七の月の十五日、あなたたちが農作物を収穫するときは、七日の間主の祭りを祝いなさい。初日にも八日目にも安息の日を守りなさい。

▶40 初日には立派な木（→レモン、オレンジなどの柑橘類）の実、なつめやしの葉、茂った木（→ミルトス）の枝、川柳の枝を取って来て、あなたたちの神、主の御前に七日の間、喜び祝う。

▶41 毎年七日の間、これを主の祭りとして祝う。第七の月にこの祭りを祝うことは、代々にわたって守るべき不変の定めである。

▶42 あなたたちは七日の間、仮庵に住まねばならない。イスラエルの土地に生まれた者はすべて仮庵に住まねばならない。

▶43 これは、わたしがイスラエルの人々をエジプトの国から導き出したとき、彼らを仮庵（→天幕、出エジプト記 16：16）に住ませたことを、あなたたちの代々の人々が知るためである。わたしはあなたたちの神、主である。

▶44 モーセは、以上の【主の祝日】のことをイスラエルの人々に告げた。

プリム（エステル記の祭り）

ユダヤ暦アダルの月の14日に行なわれ、夜と次の朝、会堂で皆がエステル記を読む祭りです。

ユダヤ人がペルシア高官ハマンの策略から救われ、絶滅の危機を逃れた故事を記念する祭りです（エステル記 9：20～30）。「プリム」はペルシア語で「くじ」を意味する「プル」からきている。ハマンがユダヤ人を根絶やしにする月を決めるために投げた「くじ」にちなむ名です。

新月祭

▶角笛を吹き鳴らせ／新月、満月、わたしたちの祭りの日に（詩編 81：4）。

→角笛は毎月第一日の新月（月齢：0）に吹き鳴らされる（民数記 10：10、28：11～15）。

以上、旧約聖書より／以下、新約聖書より

▶そのころ、エルサレムで神殿奉献記念祭が行われた。冬であった（ヨハネによる福音書 10：22）。

→神殿奉献記念祭（宮きよめの祭り、宮清めの祭り、ハヌカ祭、ハヌカーの祭り、光の祭り）

聖書中「神殿奉献記念祭」の記述は、ヨハネによる福音書 10：22 のみで、ハヌカーはヘブライ語で「奉献、献納」という意味である。

ダニエル書 12：11～12 に「日ごとの供え物が廃止され、憎むべき荒廃をもたらすものが立てられてから、千二百九十日が定められている。待ち望んで千三百三十五日に至る者は、まことに幸いである。」※₁と記されている。この預言は歴史的事実を背景にするもので、セレウコス朝シリアの統治者アンティオコス 4 世・エピファネス※₂が、BC167 年キスレーヴの月の 15 日に、ギリシア神ゼウスの祭壇を神殿に設置したことを指している。しかし、この祭壇は、BC164 年キスレーヴの月の 25 日に、ユダヤ人マカベア—豪族のユダス＝マカバイオス（ユダ＝マカベウス、マカベウスのユダ）—により取り除かれ、神殿は再奉献された。この出来事は「ハヌカー」「宮きよめ」と呼ばれ、今でも神殿祭として祝われている。

マタイによる福音書 24：15 にも、「預言者ダニエルの言った憎むべき破壊者が、聖なる場所に立つのを見たら——読者は悟れ——、」と記されている。これは終わりの日に起こる反キリストによる大患難のことを預言しているが、この出来事の原型が「ハヌカの祭り」の背景にある。

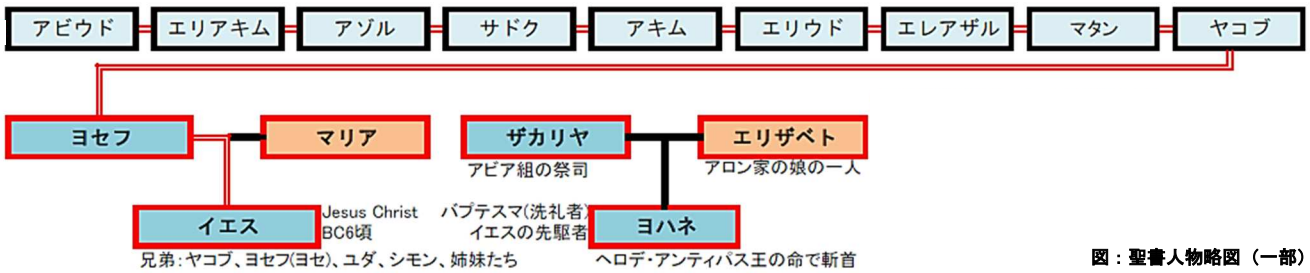
※₁：数字は、アンティオコス 4 世エピファネスによる迫害が続く間、あるいは将来のある時期を指す。

※₂：アンティオコス 4 世エピファネス（BC215/212 年？～BC164/163 年？）は、BC2 世紀のセレウコス朝（BC312 年～BC63 年頃）シリアの王（在位：BC175 年～BC163 年）。プトレマイオス朝を圧倒したことでユダヤを支配下に治めたが、やがてマカバイ戦争（BC167 年に勃発したセレウコス朝に対するユダヤ人の反乱とそれに続く戦争）を引き起こした。

【参考】 聖書にあるイエスの親族等

▶マタイによる福音書

01:16 ヤコブは①マリアの夫ヨセフをもうけた。この①マリアからメシア（→選ばれた者、油注がれた者、油を注ぐとは頭に油を塗ることの意味で、その者が特別に重要な職務に選ばれたことを示す[サムエル記上 12：13～15]。また、油を注ぐとは、神の力がその人に臨むしと見なされた＝マシアハ：ヘブライ語、メシアス：ギリシア語、キリスト＝クリトリス：ギリシア語、）と呼ばれるイエスがお生まれになった。



図：聖書人物略図（一部）

01:18 イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母①マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊（→世で働く神の力で、新約聖書において、慰め主、あるいは助け主、弁護者として描かれる。）によって身ごもっていることが明らかになった。

01:19 夫ヨセフは正しい人（→もしくは「親切な人」、「常に正しいことを行う人」）であったので、①マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。

01:20 このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻①マリアを迎え入れなさい（聖書協会共同訳：恐れず①マリアを妻に迎えなさい）。①マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。

→イスラエルの預言者たちはメシアがダビデの家系から誕生すると預言した（イザヤ書 11：1～5、マタイによる福音書 1：17）。

13:55 この人は大工の息子ではないか。母親は①マリアといい、兄弟は★ヤコブ、ヨセフ（＝ヨセ）、シモン、ユダではないか。

13:56 姉妹たちは皆、我々と一緒に住んでいるではないか。この人はこんなことをすべて、いったいどこから得たのだろう。」

イエスの兄弟姉妹：ヤコブ、ヨセフ（＝ヨセ）、シモン、ユダ、姉妹たち
 ヤコブ＝小ヤコブ＝義人ヤコブ：十二使徒の一人で、アルファイ[ギリシア語]（クロパ[アラム語、マルコによる福音書 3：18]＝クレオパ Cleopas [ルカによる福音書 24：18]) の子。

ヤコブはイエスの死から復活までを目撃し（コリント信徒への手紙一 15：7）、エルサレムのユダヤ人キリスト教会の指導者となった（使徒言行録 15：13、21：18、ガラテヤの信徒への手紙 1：19）。教会の伝承によると、AD70年以前に処刑された。当時、息子の名前は父親の名前ヨセフを付けて呼ばれるのが習慣だが、ここではヨセフの名前が無い。恐らく既にヨセフが死んでいたか、または父親がいなかったと思われる。

27:56 その中には、②マグダラのマリア（→ガリラヤ湖の西端の町マグダラの出身で、イエスはマグダラのマリアを癒した[マルコによる福音書 16：9等]。イエスに従う者として、またイエスの親しい友人として共に旅をした。）、①★ヤコブとヨセフの母マリア、③ゼベダイの子（→★大ヤコブ、★大ヤコブの弟のヨハネ）らの母（→サロメ）がいた。

▶マルコによる福音書

06:03 この人は、大工（→ギリシア語は、石やレンガを用いて建設、あるいは家具や道具を製造する人を指す。）ではないか。①マリアの息子で、★ヤコブ、ヨセ（＝ヨセフ）、ユダ、シモンの兄弟ではないか。姉妹たちは、ここで我々と一緒に住んでいるではないか。」このように、人々はイエスにつまずいた。

15:40 また、婦人たちも遠くから見守っていた。その中には、②マグダラのマリア、①★小ヤコブとヨセ（＝ヨセフ）の母マリア、そして③サロメ（→ゼベダイの子である大ヤコブと使徒ヨハネの母なるマリア）がいた。

15:47 ②マグダラのマリアと①ヨセ（＝ヨセフ）の母マリアとは、イエスの遺体を納めた場所を見つめていた。

16:01 安息日（→金曜日の日没から土曜日の日没まで）が終わると、②マグダラのマリア、①★ヤコブの母マリア、③サロメは、イエスに油を塗りに行くために香料を買った。

▶ルカによる福音書

01:27 ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名は①マリアといった。

02:16 そして急いで行って、①マリアとヨセフ、また飼葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。

▶ヨハネによる福音書 →マタイ 27:56 とマルコ 15:40 は同じ内容の記述がされている。

19:25 イエスの十字架のそばには、①その母と④母の姉妹、⑤クロパ[アラム語]（→アルファイ[ギリシア語]の別名＝クレオパ Cleopas [ルカによる福音書 24 : 18]）の妻マリアと②マグダラのマリアとが立っていた。（新共同訳、聖書協会共同訳）

→Near the cross of Jesus stood his mother, his mother's sister, Mary the wife of Clopas, and Mary Magdalene. (NEW INTERNATIONAL VERSION)

→Now there stood by the cross of Jesus His mother, and His mother's sister, Mary the wife of Clopas, and Mary Magdalene. (NEW KING JAMES VERSION)

→さて、イエスの十字架のそばには、イエスの母と、母の姉妹と、クロパの妻マリヤと、マグダラのマリヤとが、たたずんでいた。（口語訳）

→イエスの十字架のそばには、彼の母、彼の母の姉妹でクロパの妻マリヤ（＝母の姉妹とクロパの妻マリヤとが同じ人）、マグダラのマリヤが立っていた。（回復訳）

→兵士たちはこのようなことをしたが、イエスの十字架のそばには、イエスの母と母の姉妹と、クロパの妻のマリヤとマグダラのマリヤが立っていた。（新改訳）

▶使徒言行録

01:14 彼らは皆、婦人たちやイエスの母①マリア、またイエスの兄弟たちと心を合わせて熱心に祈っていた。

▶ユダの手紙

01:01 イエス・キリストの僕で、★ヤコブの兄弟であるユダ（→マルコによる福音書 6 : 3）から、父である神に愛され、イエス・キリストに守られている召された人たちへ。

★：十二使徒 →【参考】

【参考】 イエスの十字架の時、そばにいた人たち(人名等は聖書の記述順)

マタイによる福音書	27 : 56	① マリア (→子 : イエス、小ヤコブ、ヨセ (ヨセフ)、ユダ、シモン) ② マグダラのマリア ③ ゼベダイの子 (大ヤコブ、弟のヨハネ) らの母サロメ
マルコによる福音書	15 : 40	② マグダラのマリア ① 小ヤコブとヨセ (=ヨセフ) の母マリア ③ サロメ (→ゼベダイの子である大ヤコブと使徒ヨハネの母なるマリア)
ヨハネによる福音書	19 : 25	① マリア (←その母) ④ 母の姉妹 ⑤ クロパの妻マリア ② マグダラのマリア

回復訳 : イエスの母の姉妹でクロパの妻マリヤ
 →母の姉妹=クロパの妻マリアとが同じ人

【参考】 大ヤコブ(ゼベダイの子)、ヨハネ、ヤコブ(小ヤコブ)

▶大ヤコブ(ゼベダイの子) Jacobus

→James「かかとを掴む者」(ヘブライ語) ゼベダイの子、漁師/ガリラヤ出身/ヨハネの兄(最初の殉教者)
 ヨハネの兄で「ゼベダイの子ヤコブ」である。「アルファイの子ヤコブ」と区別するため「大ヤコブ」(年長のヤコブ)とも呼ばれる。父はゼベダイ、漁師であった。弟のヨハネと共にガリラヤ湖畔で網の手入れをしていたところをイエスに呼ばれ、そのまま父と雇い人を残して弟のヨハネと共に弟子になった。二人はともに血気盛んで向こう見ずなところがあり「ボアネルゲス」(雷の子ら)と呼ばれていた。イエスが捕らわれる直前、オリーブ山のゲツセマネに向かった時に、ヨハネ、ペトロと同行した。しかし、イエスの苦悩の祈りをよそに眠り込んでしまった。

キリストの死後、6年間スペインに行き布教活動を行った。エルサレムに戻るとキリスト教徒への迫害はすざましく、「使徒言行録」12:2によるとユダヤ人の歡心を買おうとしたヘロデ・アグリッパ1世によって捕らえられ、殉教(斬首)した。使徒の中で最初の殉教者である。

彼の弟子達はパレスチナを離れ、遺骸をスペインのコンポステラ (campus stellae : 星の野原) に運んだとされている。

▶ヨハネ Johannes

→John「神は慈しみ深い」(ヘブライ語) ゼベダイの子、漁師/ガリラヤ出身/大ヤコブの弟

ゼベダイの子で大ヤコブの弟、ガリラヤの漁師の子。イエスを洗礼した洗礼者ヨハネの弟子。洗礼者ヨハネと区別するために特に「使徒ヨハネ」と呼んだり、「ゼベダイの子ヨハネ」「福音記者ヨハネ」と呼ぶこともある。ヤコブ、ペトロと共にイエスの一番弟子であり、常にイエスと行動を共にした。

兄弟ともに性格が激しく、勝ち気で、自分こそイエスの一番の弟子だと考え、仲間たちから「ボアネルゲス」(雷の子ら)とあだ名をつけられた。イエスが十字架にかけられたときも弟子としてただ一人、十字架の下にいた。また、イエスの墓が空であることを聞いてペトロとかけつけ、真っ先に墓にたどりついた。

イエスの母マリアを連れエフェソスに移り住んだヨハネは、その後、パトモス島(エーゲ海に浮かぶギリシアの小島)に幽閉され、そこで「ヨハネの黙示録」を記した。十二使徒の中でただ一人殉教せず、95歳まで生きたとされる。

▶ヤコブ(小ヤコブ) Jacobus

→James「かかとをつかむもの」ヘブライ語 義人ヤコブ、アルファイの子

ヤコブはイエスの親族(弟→マタイによる福音書 13 : 55、マルコによる福音書 6 : 3、または従兄→カトリック等)で、「アルファイの子ヤコブ」あるいは「小ヤコブ」といわれる。イエスと顔がよく似ていたと言われているが、十二使徒の中では目立たない存在で、名前しか知られていない。教会を代表する人物として活躍し、初代エルサレム司教になった。「ヤコブの手紙」の著者といわれている。

エルサレムの神殿の屋根から突き落とされ、頭をこん棒でたたき割られて殉教したといわれている。